

丸

二年

画数 3
筆順
オン
クシ

ノ丸丸
ガン
まる・まる 11日める

成の立ち



がけのかたちをあらわした「丸」と、人がたおれそうな形をあらわした「丸」とを組み合わせてつくった字です。

がけは石ころがころがついて、ころびやすいところですね。がけのところで人がころびかけたようすをあらわして、「ころがりやすい」ことをあらわした字です。

いまは、ころがりやすいかたちの「まるい」といういみにつかいます。例丸顔、丸首、丸太。

まるい「たま」のいみにもつかいます。例丸葉、弾丸、砲丸。

また、「ぜんぶ」「すっかり」のいみにもつかいます。例丸丸、丸損、丸やけ、丸はだか。

使い方

▽ぼくの顔は丸顔です。丸顔は、南方に多い顔なのだそうです。ぼくは、よく、友だちに、たぬきというあだ名でよばれますが、それは、ぼくの顔が丸顔で、たぬきになっているからです。

▽しりあいの家が、夜中の火事で丸焼けになりました。ねていた人たちは、びっくりして、着のみのままにげ出しました。家は丸焼けになって、大変でしたが、いのちだけは助かって、不幸中の幸いでした。

熟語例

▽丸顔（丸い顔。人の顔の形には、丸顔、うりざね顔（長細い顔）、逆三角形の顔、四角い顔など、いろいろありますね。）

▽丸首（シャツのえりが丸くくりぬいてあるもの。丸首シャツのことです。）

▽丸太（皮をはいた木。丸くて太いから、丸太といいます。まるたんぼうとも言います。）

▽丸薬（丸いたまにした、ねり薬）

▽弾丸（鉄砲でうちだすたま）

▽砲丸（砲丸投げにつかう金属製のたま）

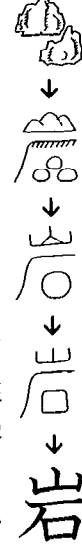
岩

二年

画数 8
筆順
オン
クシ

山 山 山 岩
ガン
いわ

成の立ち



「山（1年27）」という字と、「石（1年48）」という字を組み合わせて作った字で、「山のように大きな石」をあらわした字です。むかしは、「石」も「岩」も同じように「いわ」と読みましたが、今は、小さなものを「いし」といって「石」と書き、大きなものを「いわ」といって「岩」と書くようになりました。

また、岩はひじょうに「堅固（かたくてじょうぶ）」なので、「かたくてじょうぶなもの」のたとえにつかわれます。

〔岩の古い字体は「巖」、あるいは「巖」である。〕

使い方

▽船は岩壁と岩礁の間をすすんで行きましたが、その両がわには、巨岩あり奇岩ありで、目を休ませるひまもありませんでした。

熟語例

▽岩壁（壁のように切り立った岩。岩の崖になったところ）

▽岩礁（礁は水中の岩で、焦げたように黒いので礁といえます。暗礁ともいいます。）

▽巨岩（巨はとても大きいこと。とても大きな岩。）

▽奇岩（奇はともめずらしいこと。めずらしい形をした岩のことです。）

▽砂岩（砂が水中で水圧によりかたまってきた岩。礫岩ともいいます。）

▽水成岩（砂岩や礫岩のように水中でできた岩のことです。堆積岩ともいいます。）

▽火成岩（岩がとけて液状になったもの）が地上に出てかたまってきた岩